

# 教職大学院 NEWS



三重大学大学院教育学研究科 教職実践高度化専攻

第4号 H29.8月発行

## 教職大学院の長期実習について紹介します！

教職大学院では、実践的指導力の育成及び強化を図るという観点から、2年間で300時間（10単位）以上の、学校における実習（「長期実習」）を行います。三重大学教職大学院の実習は、次のように目的別に分かれています。

### 【学校経営力開発コース（現職教員学生）】

#### < 1年次 >

##### ○東紀州実習（10日間）

過疎化や少子化が顕著な中で、特色ある取組を進めている東紀州地域の学校教育活動から学びます。

（効果的な複式指導、小規模校における学力向上の取組、特色ある地域学習、学校行事等）

##### ○連携協力校実習（2～4週間）

県内連携協力校において、自らの問題意識や研究テーマと関連した協働的・実践的な研究を行います。

#### < 2年次 >

##### ○現任校実習（週0.5日）

現任校を拠点として、学校の課題発見・解決に取り組み、実践的な研究をさらに深めていきます。

### 【教育実践力開発コース（学部卒生）】

#### < 1年次 >

##### ○附属学校実習（週1日）

附属学校でTTやTAをしながら、自らの問題意識や研究テーマを明らかにしていき、課題の解決に向けて共同実践活動を行います。

#### < 2年次 >

##### ○連携協力校実習（週1日）

県内の連携協力校に定期的に参画し、研究テーマについてよりよい解決を目指す取り組みを行っていきます。

##### ○東紀州実習（10日間）

今回は、教育実践力開発コースの院生が実施している「附属校実習」について紹介します。

「附属校実習」は、1年をI～IVの4つの期間に分け、それぞれが「附属幼稚園」「附属小学校」「附属中学校」「附属特別支援学校」へ、期間ごとにローテーションで実習に行きます。様々な校種で実習を行うことにより、発達段階等の異なる教育を実際を目で見て、肌で感じることで、幅広い経験を積むことができます。

○附属小学校の実習では、様々な学年の授業や児童の活動に参加させていただく機会を多く得ることができました。その中で児童一人一人の個性の違い、発達段階の違いを感じることができ、その違いに合わせた言葉遣いや行動を意識することが重要であると実感しました。また、授業では児童が主体となって進められる構成になっていて、その中で先生は補助的な役割を担っていました。この結果、児童にとって、深い学びになると感じました。

○私は附属中学校で主に授業見学をさせていただき、「生徒中心に授業を見ることの大切さ」を学びました。実習前の私は、授業見学では先生の動きを追うことに必死になって、生徒の発言や表情等についてはほとんど意識できていませんでした。しかし今回、先生方のアドバイスを参考に、生徒の様子に着目してみると、全員で同じ活動をしていても生徒一人ひとりが様々な思いや疑問を抱いていることがはっきりと見えてきました。また、副校長先生や授業を担当された先生との振り返りでは、自分自身がその思いや疑問に向き合っていくためのヒントを沢山いただきました。今回学んだことをふまえ、これから次回の実習の目標を考えていきたいと思います。

○附属四校園で実習があると聞いたときは、まるで大海原に航海に出かけるような気分でした。今回のクールでお世話になった特別支援学校では、私の専門である英語教育が行われていないため、英語の教授法に関して学んだことは特にありません。しかし、「学習者のレベルにあった授業」を目指す私にとって、ユニバーサルかつ個人の特性に合った特別支援教育は、非常に参考になりました。どんな活動においても、成長させることを前提としながら、習熟度が違う子どもたちに同じゴールを求めないところが魅力的でした。今後の授業づくりに生かすことができると思います。

○今回の実習を通して、子どもの発達に応じて、教師の対応を変えていかなければならないということを実感しました。また、発達を支えるためには、教師の配慮や、教師間、保護者、地域との連携が必要だと思いました。三重大学附属幼稚園の先生方は、すべての行動や環境づくりに、明確な意図を持たれていることに驚きました。教師は園児との遊びに全力を尽くすとともに、もっと園児が遊びに夢中になるためにはどうするとよいのかということを経験から考えて、最善の方法を探らなければならないということを感じました。

この授業では、スクールマネジメント（学校経営）の理論について学説史的に紹介しています。具体的には、科学的管理法、システム論、主観主義、マイクロポリティクス、同僚性・協働性、組織文化論、品質管理論、学習する組織論、知識経営論といった教育経営の組織論を中心に紹介しながら、実際の学校現場における実践的な課題について議論を深めていく形式の授業です。理論は「抽象的すぎる」「役に立たない」といった意見がありますが、それは実際の学校の具体的な場面や課題と結びつけて紹介されていないからだと思います。受講生の皆さんに、教育経営の組織論の面白さを知ってほしいと思っています。授業中には思わぬ

意見や質問が出るため、授業者である私自身も学ぶところが多いです。



【授業に対する院生の感想紹介】

- \* この授業では、理論だけでなく現場経験の声も聞くことができ、実践とつなげて考えることができます。映像資料・アクティビティもあり、分からないところは、丁寧に回答してもらえるので、しっかり理解ができます。
- \* 緻密に計算された授業構想にいつも驚嘆します。過去の偉人たちが考えた問いを追体験する授業は、これまでの歴史を学び、これからを考える力が確実につく授業体系だと思えます。何度も振り返ることや復習は必要ですが、非常に実りの多い授業です。
- \* 学校現場で知りえることができなかつた知識を与えていただき、「それってどういうこと？」と授業後に自分で調べたくなります。明日の自分に役立てることができそうな授業です。
- \* 経営や組織としての観点から学校をひも解いていく講座です。扱われる事例も小学校から高校まで多岐にわたっており、教職大学院の授業の中で最も刺激的でかつ学びが多い授業の一つであると感じています。
- \* この授業は、まさに教職大学院ならではの内容を多く学ぶことができます。特に私は組織文化論と知識経営論がとても印象に残っています。現場にいるとなかなか見えにくい原理・原則をじっくり学ぶことで、現場の見え方が大きく変わってくると思います。



## 第2回教職大学院説明会 一緒に学びませんか？

8/19 会場 三重大学 教職支援センター2Fレクチャールーム

◎参加申込

(土) 14:00～16:00

①氏名、②所属、③参加希望日を記入のうえ、下記メールアドレス宛に説明会当日の3日前までにお送りください。お気軽にご参加ください！

info-mkd@edu.mie-u.ac.jp

編集・発行 三重大学大学院教育学研究科 教職実践高度化専攻（教職大学院）広報担当

☎ 059-231-9319（学務担当）

〒 514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577

URL <http://mkd.edu.mie-u.ac.jp> (教職大学院専用 HP)

✉ [info-mkd@edu.mie-u.ac.jp](mailto:info-mkd@edu.mie-u.ac.jp)